

2023年5月12日

各位

会社名 株式会社アルファクス・フード・システム
代表者名 代表取締役社長 藤井由実子
(コード番号：3814 東証グロース)
問合わせ先 常務執行役員 菊本健司
電話番号 0836-39-5151
URL <https://www.afs.co.jp/>

上場維持基準（純資産基準）の適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2022年11月14日付「2022年9月期決算短信〔日本基準〕（非連結）」及び、2022年12月2日付「（訂正・数値データ訂正）「2022年9月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」の一部訂正について」にてお知らせしたとおり、2022年9月期において債務超過となり、2022年11月14日付「債務超過解消に向けた計画について」及び、2022年12月2日付「（訂正）「債務超過解消に向けた計画について」の一部訂正について」を開示しております。

つきましては、2023年9月期第2四半期における債務超過解消に向けた計画の進捗状況について、以下のとおりお知らせいたします。

記

1. 2023年9月期第2四半期決算の状況について

本日開示しました「2023年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）」に記載のとおり、当社は、2023年9月期第2四半期において、売上高は843百万円（前年同期比32.8%増）となりました。利益面では、粗利益率の高い「飲食店経営管理システム（R）」「自動発注システム」を既存顧客に導入したことなどにより営業利益は47百万円（前年同四半期は営業損失171百万円）、経常利益は38百万円（前年同四半期経常損失189百万円）となりました。

また、2022年11月29日付「固定資産の譲渡及び事業譲渡の予定並びに特別利益計上に関するお知らせ」及び、2022年12月2日付「（訂正）「固定資産の譲渡及び事業譲渡の予定並びに特別利益計上に関するお知らせ」の一部訂正について」でお知らせしたとおり、当社所有のホテルに係る不動産の売却を2022年11月30日に実施しており特別利益（固定資産売却益）131百万円、特別損失（土地売却損）22百万円を当第1四半期に計上しております。その結果、当四半期純利益は143百万円（同四半期純損失194百万円）となり、当該第2四半期における債務超過の額は、199百万円（前事業年度末債務超過の額420百万円）となっております。

2. 債務超過の解消に向けた基本方針について

当社は、2022年11月14日に公表しました「債務超過解消に向けた計画について」に記載の通り、事業面及び財務面での安定化を図り、持続的な収支の改善を図るとともに、資本増強に向けた施策を推進し、当該状況の解消・改善に努めてまいります。

3. 基本方針を踏まえた取り組みの進捗状況について

①業績改善への対応

2023年9月期第2四半期においては、2022年12月28日に公表いたしました「事業計画及び成長可能性に関する事項」に記載のとおり、半導体不足で入荷が遅れていたPOSシステム「FOODα4000」は、2022年11月から断続的に入荷が再開されており、また、今後の更なる有事の対応を考慮し、汎用機のWindowsPCでもPOSシステム「FOODα4000」と同等の機能を備えられるようソフトウェア対応をした「FOODα4100」（2022年10月19日リリース）を販売開始したことにより、安定的な在庫確保がされております。このことにより、前事業年度までの2年間、保留になっていた店舗システム機器の入れ替え・納品を進めており、また、新型の配膳AIロボットα8号機の市場投入により、システム機器事業におきましては、当該顧客の甚大なる人手不足によりお店の営業優先となっているため納品が予定通りとはいかないものの、ほぼ順調に推移しており、前年同四半期より45.3%増加しております。売上高は322百万円（コロナ禍対策製品売上高88百万円を含む）となりました。

基幹システムであるソフトウェア等の納品については、予定通り順調に進み、ASP/パッケージ事業におきましては、売上高は447百万円（前年同四半期比28.8%増）となりました。引き続き、店舗システム機器の納品と併せて、「飲食店経営管理システム（R）」「自動発注システム」「FOOD GENESIS」「勤怠管理システムTimely」の導入・拡大を進めてまいります。

なお、人手不足による「配膳AIロボット」は、受注に向けたテスト導入店舗が増加しております。また、テイクアウト精算機システム「テイクショット」、カラオケトータルシステム「カラオケショット」においては、順調に受注が進んでおり売上高は88百万円となっております。ウイルスゲート・ショット、ナノプラチナ液の販売は、他業界展開も可能であることから、代理店政策を構築して、引き続き販路拡大を推進しております。

今後も製品の調達方法・生産体制の見直しなどによる製品確保の改善をより一層強化することで、遅延のない納品と収益力の増強に努めてまいります。

②財務体質の改善

当社は、資本増強にともなう財務体質の改善及び運転資金、事業資金の調達のため、2022年4月25日に公表しております「第2回新株予約権（行使価額修正選択権付）の取得及び消却並びに第三者割当による行使価額修正条項付第4回新株予約権の発行に関するお知らせ」でお知らせしたとおり、第三者割当による第4回新株予約権の発行を行い、2022年10月20日ですべて行使が完了しております。当第1四半期累計期間において第4回新株予約権の行使により調達した資金は77百万円となっております。

また、前述のとおり、当社所有のホテルに係る不動産の売却を2022年11月30日に実施しており、特別利益（固定資産売却益）131百万円、特別損失（土地売却損）22百万円を当第1四半期に計上しております。

4. 今後の見通しについて

引き続き、業務改善に取り組み、持続的な収支の改善を図るとともに、今後も第三者割当増資などの資本増強に向けた施策を推進し、当該状況の解消・改善に努め、2023年9月期末の早期の債務超過解消を目指してまいります。

なお、2022年9月期の債務超過は、新型コロナウイルス感染症の影響に起因するものであるため、上場維持基準の「純資産」に係る改善期間が、1年から2年に延長されております。

今後におきましては、事業年度末日で債務超過の解消が確認されるまでの間、四半期ごとに当該取り組みに関する報告を実施させていただきます。

また、当社は、2022年9月30日時点におけるグロース市場の上場維持基準の「時価総額」についても基準を満たしておりません。2025年9月末までに上場維持基準を充たすために、引き続き取り組みを進めてまいります。

時価総額基準の適合に向けた取り組みの詳細については、2022年12月28日付「上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況および計画期間の変更について」をご参照ください。